

「教育改革総合指標・行動計画」にもとづくマネジメントシステムの構築 ー立命館大学における次期システム構築に向けた取り組みー

宮 浦 崇*¹ 沖 裕 貴*²

＜概要＞立命館大学では、教育改革活動全体を包括的に評価することを目的とした独自指標と行動計画策定の取り組みとして「教育改革総合指標・行動計画（Total Education Reform Indicator：TERI）」の運用を行っている。今回、これまでの運用から得た知見と、フレームワークとして利用していた大学基準協会「大学基準」の大幅改定を踏まえた、次期システム構築の取り組みについて発表する。

＜キーワード＞ PDCAサイクル、マネジメントシステム、内部質保証

1.はじめに

立命館大学の「教育改革総合指標・行動計画」は、教育改革活動を計画策定、進捗管理、評価、改善の循環、いわゆるPDCAサイクルの中に位置づけ、適切に実行していくことを目的に開発された指標であり（沖、江原、宮浦、野田、加藤：2009）、2007年度より試験的に運用を開始し、2008年度からはオンラインシステムを導入した全学的運用を開始した（宮浦：2009）。

2007年、この取り組みを開始するにあたり、導入の目的・システムの方向性として、①学士課程教育全体を総合的に捉える指標の設定、②プロセスの充実が結果・成果につながるという考え方の導入、③各種報告書作成の作業の合理化と負担の軽減、④PDCAマネジメントサイクルの実施、⑤FD活動の一環、⑥自己点検・評価に加えて評価の客観化を高める、⑦IR（Institutional research）データベースの役割を果たす、以上の7つの視点について、大学として確認がなされた。

これらをふまえて開発・運用されたシステムは2008年の本格運用より今日までの2年間、各学部研究科・教学機関において、年度末の総括文書作成、事業計画・事業報告、競争型予算の申請（および査定）、認証評価における自己点検・評価活動等へ活用が図られてきた。本年度からは、これまでの運用から得られた知見を取り入れることとあわせて、外的要因としてのフレームワーク変更に対応するために、システムの再構成に着手している。

教育改革総合指標・行動計画第2フェーズと位置づけられる新システムは、学内におけるニーズと、システムを利用することによってもた

らされる効果、そして昨今社会的に大学教育に要求される機能とのバランスを考慮し、検討・開発を行っている。

2.「大学基準」改定と現行システムの見直し

2008年度に導入した「教育改革総合指標・行動計画」にもとづくオンラインシステムは、そのフレームワーク（指標・基準策定や行動計画立案のための枠組み）を、大学基準協会の第一期大学基準の目次項目に依拠し構成したことを特徴としている。その際、大学基準が示す点検・評価項目249項目から教育活動に関係する項目の（法人運営や研究活動を除いた教学領域）点検・評価項目を抽出し、その項目ごとに向こう4年間の行動計画、指標、評価基準等を策定し、恒常的に効果検証を行うPDCAサイクル運用を指向したものであった。このことは、先に挙げた7視点の③についての対応を重視した結果でもあり、認証評価の受審の際の膨大な作業を日常の教学改善活動の中で可能な限り回収しようとしたところによる。

2009年10月、2011年度から始まる大学基準協会による第二期の認証評価にあわせて、新大学基準が同協会により示された。立命館大学は第二期初年度である2011年度に、同協会による2回目の認証評価の受審を控えている。

同協会の新大学基準は、従来の15の評価の基準（大項目）を10項目に集約・削減する形で策定された。点検・評価項目は249項目から45項目に削減されることとなった。網羅的な点検・評価の形態から、各大学の自主性・自律性がより重視される形となった（図1）。

*1 MIYAURA, Takashi : 立命館大学 e-mail= miyaura@fc.ritsumei.ac.jp

*2 OKI, Hiroataka : 立命館大学 e-mail= oki@fc.ritsumei.ac.jp

一評価基準、評価項目一

()内の数字は、(評価項目一評価の観点)を表す

1 理念・目的 (2-3)	1 理念・目的 (3-5)
2 教育研究組織 (2-2)	2 教育研究組織 (2-3)
3 教育内容・方法(①教育課程、②教育方法、③国内外との教育研究交流、④学位授与・課程修了の認定) (36-81)	3 教員・教員組織 (4-10)
4 学生の受け入れ (20-29)	4 教育内容・方法・成果(①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、②教育課程・教育内容、③教育方法、④成果) (12-30)
5 学生生活 (6-17)	5 学生の受け入れ (4-7)
6 研究環境 (7-19)	6 学生支援 (4-9)
7 社会貢献 (3-13)	7 教育研究等環境 (5-12)
8 教員組織 (11-27)	8 社会連携・社会貢献 (2-5)
9 事務組織 (6-12)	9 管理運営・財務(①管理運営、②財務) (6-18)
10 施設・設備 (9-16)	10 内部質保証 (3-9)
11 図書・電子媒体等 (2-5)	
12 管理運営 (7-16)	
13 財務 (6-8)	
14 点検・評価 (4-8)	
15 情報公開・説明責任 (3-4)	

図1 大学基準協会による新評価基準、評価項目

大学基準協会 (2010) より

今回の改定で一つの特徴とされるのが、大学基準協会が他の認証評価機関に先駆けて「内部質保証」に注目した評価を実施することを表明していることである(大学基準協会：2009)。特に項目10番目では、点検・評価と情報公開・説明責任(旧大学基準14、15項目)を統合し「教育の質を保証する制度」を基準項目として初めて掲げていることが注目される。

さらに、内部質保証システムの構築とは、点検・評価体制の単なる充実ではなく、「自己点検・評価を生かしながら、改革・改善を継続的に可能とする自律的なシステムを整備すること」であるとし、「点検・評価の結果を改革・改善に確実に繋げる」ことの重要性と、そのための具体的な計画の必要性が強調され、Plan-Do-Check-Actionサイクルが適切に機能しているかどうかを評価することに同協会は焦点を当てている(大学基準協会：2009)。

以上のような大幅な基準の変更への対応とあわせて、2年間のシステム運用で得られた知見を反映させるために、現行システムの見直しを開始した。

3. 次期システムの構成理念・利用方針

「改革・改善を継続的に可能とする自律的なシステム」すなわち、PDCAサイクルが適切に機能する「内部質保証システム」のひとつとしてシステムがその役割を果たすことが開発側の意図である。システムの利用を通じて、立命館大学の教育の「質の向上」(improvement)へとつなげるためのツールの提供である。

今回、学部・研究科等へのヒアリングなどから、現状システムの課題整理を行った結果、次

のような課題・ニーズが浮上した。

- ①入力項目の多さと複雑なシステム(多階層)の解消が必要。
- ②教学改善に活用できる根拠資料(evidence)や会議資料などが、簡便に収集・保管できる仕組みが必要。
- ③網羅的な認証評価項目ではなく、人材育成目的や教育目標が意識できる仕組みが必要。
- ④教育目標や根拠資料(evidence)の妥当性について認識の均一化を図る必要がある。

こういった指摘を踏まえ、次期システムの構成理念・利用方針について次のように位置づけた。

まず第一に「学部・研究科の人材育成目標達成を主眼とした各種教育活動のPDCAサイクル検証のためのシステム」であることを明確にした。このことで、従来のフレームワークとして大学基準協会の認証評価項目に依拠した網羅的な入力方針を改め、多階層、多入力の見直しと、「人材育成目的」―「教育目標」―「教育目標を達成するための具体的行動」の関係性の可視化するためのツールという方向性の確認であり、教育目標と行動計画の体系性・整合性を意識することが可能となる(図2-1, 2-2)。次期システムのフレームワークとして、「上位目的」―「目的」―「行動目標」というツリー構造を採用したが、この構造は私立大学連盟自己改革推進プログラムにおけるPDCAサイクル運用研修の内容を参考に構成した。

立命館大学 教育改革総合指標・行動計画		
基本理念・教育目標一覧：教育行動計画一覧		
『○○学部』人材育成目的と教育目標		
『○○学部』の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準		
教育目標	評価指標	評価基準
1. ○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準
2. ○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準
3. ○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準
4. ○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準
5. ○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準	○○学部(○○学部)の教育目標(学生生活やキャリア形成に資する能力)と評価指標・評価基準

図2-1 人材育成目的と教育目標の検証

重点行動計画の概要			
※は入力必須項目			
Plan 行動計画策定	進行状況※	☐ 完了 ☒ 進行中 ☐ 未着手	
	行動目標※	1年生小集団クラスにおけるプログレスシート(PS)を活用した「問題発見」「記録」取組を実施し、学生	
	行動目標の補足内容		
	行動期間※	開始予定時期 2009年 4月 ~ 終了予定時期 2010年 3月	
	評価指標※	① PSの活用度 ② PS活用学生のアンケート結果(4段階の上位2段階の割合) 評価指標の追加	
	評価基準※	(①②共通) 評価4: *% ② 評価3: *% 評価2: *% 評価1: *% ※行動期間の終了予定時期に目標とする評価に◎をつけてください 評価基準の追加	
	根拠資料 (evidence)	資料添付 2009年度 第2回 数授会資料 20090427.pdf	根拠資料の補足内容
対応する認証評価項目	3.【教育内容・方法・成果】教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 ※10の基準から選択してください		
Do 実施	根拠資料 (evidence)	資料添付 2008年度 第1回 企画委員会20080613.pdf 2008年度 第2回 企画委員会20080825.pdf	根拠資料の補足内容
	評価基準の達成度	評価3: *%	
Check 点検	根拠資料 (evidence)	資料添付 2008年度 第1回 数授会資料 20081124.pdf	根拠資料の補足内容
	到達点	本重点行動計画を次の重点行動計画にコピーする 次の行動計画にコピー	
Action 改善	根拠資料 (evidence)	資料添付 2008年度 第10回 数授会資料 20081124.pdf	根拠資料の補足内容
	更新 最終更新日時 2010年3月14日(月) 15時34分		

文書管理システム内の文書検索

この画面の削除へ ↑

図3 重点行動計画の入力フォーム